平成 30 年度日本植物病理学会関西部会プログラム

日　程　　平成 30 年 9 月 27 日（木），28 日（金）

会　場　　山口大学　吉田キャンパス
〒753-8511　山口県山口市吉田 1677-1　（http://www.yamaguchi-u.ac.jp/）

受　付　　共通教育棟　1 階　15 番教室

事務局　　共通教育棟　1 階　14 番教室

第 1 日（9 月 27 日）

11:30～　受付開始　共通教育棟 1 階　15 番教室		
13:30～14:30　総会　共通教育棟　1 番教室 シンポジウム　共通教育棟　1 番教室 部会長　土佐　幸雄　氏 テーマ：コムギいもち病菌の進化機構		
14:50～18:02　一般講演		
第 1 会場 （共通教育棟 1 階 3 番教室）	第 2 会場 （共通教育棟 2 階 4 番教室）	第 3 会場 （共通教育棟 1 階 11 番教室）
101～116 病原体の性状，分類・同定，防除薬剤・薬剤耐性，感染生理，病原性・抵抗性 （菌類病，植物保護）	201～216 病原性・抵抗性，感染生理，生物防除・防除法 （細菌病，植物保護，菌類病）	301～316 発生生態，生物防除・防除法，防除薬剤・薬剤耐性，その他 （菌類病，植物保護，細菌病，ウイルス・ウイロイド病）
18:30～20:30　情報交換会　（キャンパス食堂 ボーノ）		

第 2 日（9 月 28 日）

9:00～11:48　一般講演		
第 1 会場 （共通教育棟 1 階 3 番教室）	第 2 会場 （共通教育棟 2 階 4 番教室）	第 3 会場 （共通教育棟 1 階 11 番教室）
117～130 感染生理，病原性・抵抗性，分類・同定，防除薬剤・薬剤耐性 （菌類病，植物保護，ウイルス・ウイロイド病）	217～230 感染生理，検出・診断，分類・同定，発生生態，防除薬剤・薬剤耐性，病原体の性状，その他 （細菌病，菌類病，植物保護）	317～329 生物防除・防除法，防除薬剤・薬剤耐性，その他 （植物保護）

お願い

部会参加の皆様へ

- 受付場所：　共通教育棟　1 階　15 番教室です.
- 事前申し込み済みの方：　講演要旨集，名札/領収書，および，名札ケースをお渡しします．名札と領収書の払い込み金額をご確認下さい．別途領収書の必要な方は申し出て下さい.
- 当日申込みの方：　参加費（4,500 円），講演要旨集代（2,000 円），情報交換会費（一般 5,000 円，学生 3,000 円）を必要に応じてお支払いいただき，領収書，講演要旨集，名札ケースを受け取って下さい.
- 会場での注意事項：　会場内では名札を常時身につけて下さい．名札ケースは関西部会で再利用しておりますので，部会終了時に各会場の出入り口にてご返却下さい．

  携帯電話など音が出る電子機器は，講演会場内では電源をお切りいただくかマナーモードの設定をお願い致します.

  施設内は全館禁煙です．建物外に喫煙場所がございますのでご利用下さい.
- その他のご案内：　休憩室として，共通教育棟 1 階の 12 番教室および 13 番教室をご利用下さい.

  昼食は，大学生協のレストランが利用できます．また，大学近辺には飲食店およびコンビニエンスストアが数軒あります.

  不明な点や要望などがありましたら，部会スタッフに遠慮なくお申し出下さい.

発表者の皆様へ

- 発表時間 10 分（予鈴 8 分），討論時間 2 分の計 12 分です．演題数が多いため，時間厳守でお願いします.
- スライド映写は OS Windows 7，PowerPoint 2013 にて行います．発表用ファイルは PowerPoint 2007 以降のファイル形式（拡張子が pptx）で保存し，Windows 版 PowerPoint 2013，スライドサイズは標準の 4:3 で正常に表示されることを確認のうえ持参して下さい．PowerPoint 2013 等で作成されたファイル（拡張子が ppt）の拡張子だけを書き換えないで下さい.
- スライド作成に際しては，特殊なフォントや機種依存文字は使わないで下さい．また，後部座席からでも判読できるように，小さい文字や細かい図表の使用は避けて下さい.
- 受付時に，発表スライドのファイル名は「発表番号-発表者氏名.pptx」（例，101-伊藤真一.pptx）としてください．発表番号は半角文字，括弧「」は不要です.
- 発表スライドのファイルは，必ずウイルスチェックをお済ませの上，USB メモリに保存して持参し，**1 日目の発表者は 9 月 27 日（木）14:00 まで，2 日目の発表者は 9 月 27 日（木）17:30 までに受付に提出**をお願いします．また，提出時にご自身で必ず動作確認をお願いします．USB メモリはその場で返却しますが，念のため発表終了まではご自身でお持ち下さい.
- 各発表の PowerPoint スライドショーの開始・終了は会場係が行いますが，発表中のスライド送り等は，PC のキーボードの操作により発表者ご自身で行っていただきます．なお，サイズが重いファイルはパソコン動作に不具合をきたすことがありますので，なるべく軽いファイルをご準備ください.
- 講演要旨の訂正箇所が多い場合（訂正が 2 カ所以上）は，朱書きで訂正した要旨のプリントアウトを座長に提出して校閲を受けるとともに，最終的な訂正原稿のファイルを 10 月 12 日（金）までに，メールに添付して本年度の関西部会開催地事務局のアドレス（h30bukai-ag@mlex.cc.yamaguchi-u.ac.jp）宛まで送付し，必ず受領連絡をお受け下さい．

座長の皆様へ

- 部会前に講演要旨を読み，必要があれば事前のメールや部会当日の発表者との直接打合せ等で，要旨の訂正をお願いして下さい．
- 発表者から要旨の訂正依頼があった場合は，座長用の講演要旨集に赤字で直接記入するか，該当ページに訂正原稿を挟み込んで下さい．講演要旨の訂正箇所が多い場合は，訂正要旨のプリントアウトを校閲し，発表者に対して訂正原稿のファイルを 10 月 12 日（金）までに本年度の関西部会開催地事務局のアドレス（h30bukai-ag@mlex.cc.yamaguchi-u.ac.jp）宛に送付するようご指示下さい．
- 発表 10 分（予鈴 8 分），討論 2 分の計 12 分の時間厳守で進行をお願い致します．

＜会場までのアクセス＞

・JR 新山口駅→ JR 山口線各駅停車 19 分→「湯田温泉駅」下車、南へ約 1200m、徒歩約 15 分

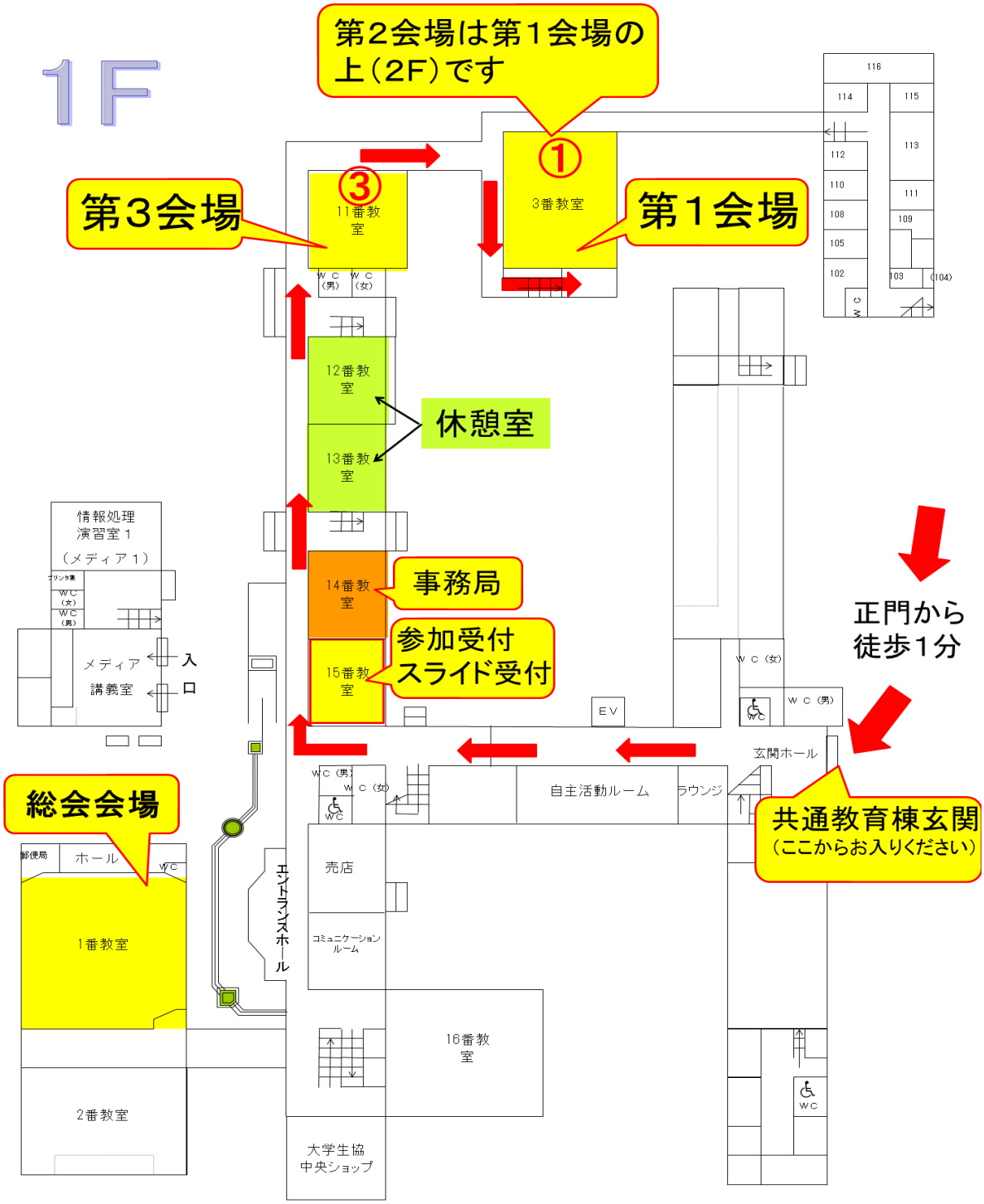
・JR 新山口駅 5 番バス乗り場（北口）→ 防長バス平川経由 30 分→ 山口大学前バス停→ 徒歩 3 分→　吉田キャンパス

・山口宇部空港 新山口駅行きバス乗り場→ 宇部市営バス（特急）37 分→ JR 新山口駅（終点）、乗換（5 番バス乗り場）→　防長バス平川経由 30 分→ 山口大学前バス停→ 徒歩 3 分→ 吉田キャンパス

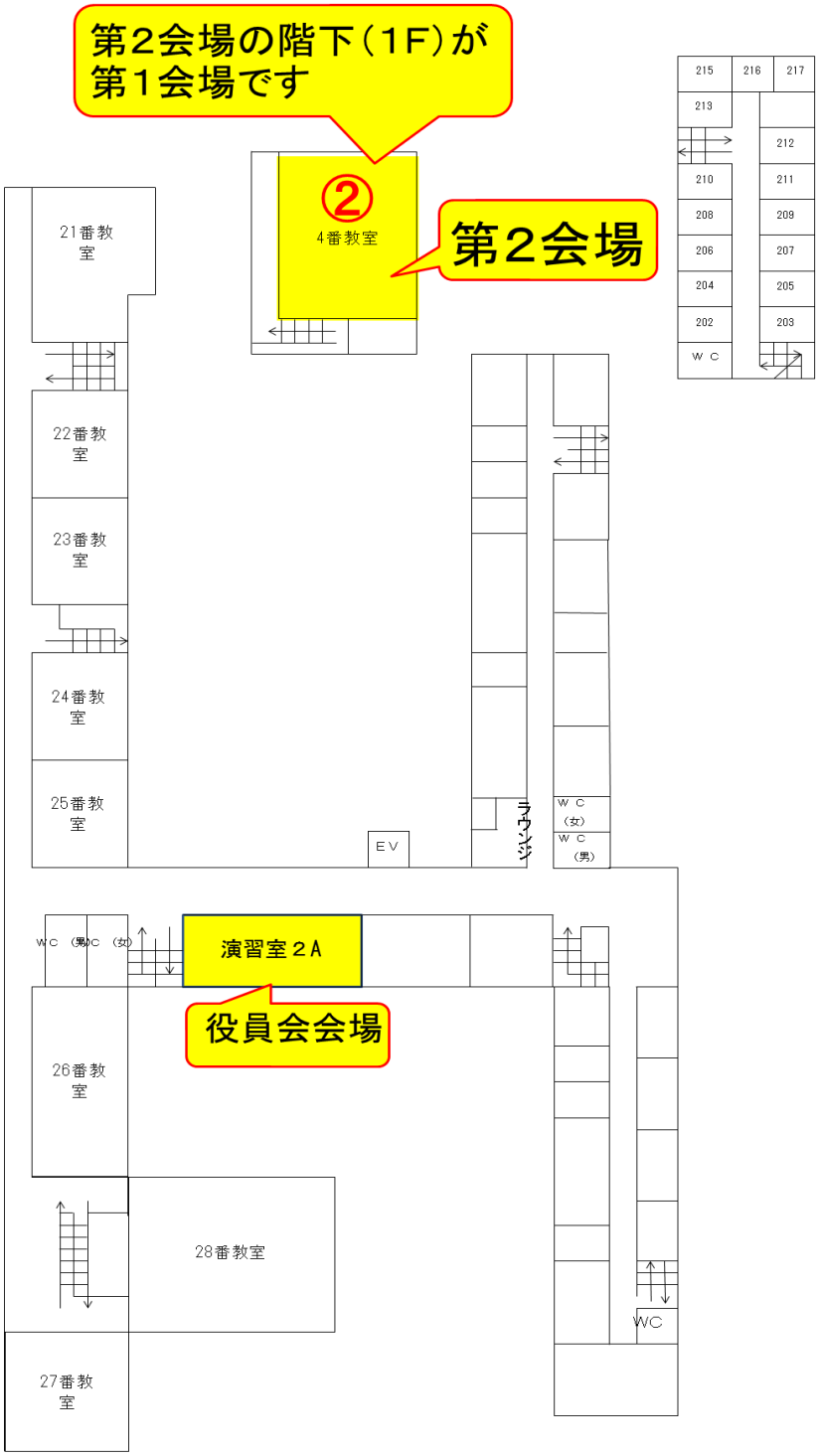
・湯田温泉地区（宿泊ホテル）からバスでのアクセス：JR バスおよび防長バスのバス停（湯田温泉あるいは下湯田）から乗車 5 分→　山口大学（JR バス）（吉田キャンパス内）あるいは山口大学前（防長バス）で下車→ 徒歩 3 分→ 吉田キャンパス

＜会場案内＞ 山口大学吉田キャンパス共通教育棟１階および２階

＊情報交換会への移動はスタッフの案内にしたがってお願いします。



2F


第2会場の階下（1F）が
第1会場です
②
4番教室
第2会場
21番教室
22番教室
23番教室
24番教室
25番教室
26番教室
27番教室
28番教室
演習室２Ａ
役員会会場
ＥＶ
ＷＣ（女）
ＷＣ（男）
WC
215
216
217
213
212
210
211
208
209
206
207
204
205
202
203
ＷＣ

1日目

1日目 9月27日（木）	第1会場	第2会場	第3会場
	座長　佐藤 育男（名大院生農） 101-104	**座長　能年 義輝（岡山大院環生） 201-204**	**座長　内橋 嘉一（兵庫農技総セ） 301-304**
14:50	101 P450-4の導入による*Fusarium fujikuroi* Fグループ株のジベレリン産生力の回復 ○舘林　将[1]・長坂拓弥[1]・稲垣　晋[1]・Bao Wanxue [2]・清水将文[1]・景山幸二[3]・須賀晴久[4]（[1]岐大応生・[2]岐大院連農・[3]岐大流域研セ・[4]岐大科基セ）	201 *Ralstonia solanacearum* OE1-1株のクオラムセンシングに不可欠な転写制御因子をコードするphcA遺伝子の発現制御 ○林一沙[1]・瀬沼和香奈[1]・大西浩平[1]・木場章範[1]・甲斐建次[2]・曳地康史[1]（[1]高知大農林海洋・[2]阪府大院生命環境）	301 メッシュ農業気象データを活用したキク白さび病菌の感染リスク評価 ○浅野峻介・芳田侃大（奈良農研セ）
15:02	102 国外の*Fusarium fujikuroi*で報告されたBakanae型/Stunt型と国内のGグループ/Fグループの関係性 ○須賀晴久[1]・Sultana Sharmin[2]・Bao Wanxue[2]・清水将文[3]・景山幸二[4]（[1]岐大科基セ・[2]岐大院連農・[3]岐阜大応生・[4]岐大流域研セ）	202 青枯病菌OE1-1株のセンサーカイネースPhcSのHis230Gln置換はクオラムセンシング活性を低下させる ○瀬沼和香奈[1]・林一沙[1]・木場章範[1]・大西浩平[1]・甲斐建次[2]・曳地康史[1]（[1]高知大農・[2]阪府大院生命環境）	302 ヘソディムに基づくタカナ根こぶ病の予防と管理 ○ 中嶋香織[1]・川上　拓[1]・礒﨑真英[1]・吉田充希[2]・黒田克利[1]（[1]三重農研・[2]三重紀州普セ）
15:14	103 日本におけるサトイモ疫病菌*Phytophthora colocasiae*の交配型分布 ◯馮文卓[1]・大坪香代子[2]・日恵野綾香[2]・須賀晴久[3]・景山幸二[2]（[1]岐大院連農・[2]岐大流域研セ・[3]岐大科基セ）	203 MEK2[DD]によるHR様細胞死を抑制する青枯病菌F-boxエフェクターの機能解析 ○村尾あゆみ[1]・新里剛一[1]・田口義人[1]・吉岡博文[2]・秋光和也[1]・市村和也[1]（[1]香大院農・[2]名大院農）	303 タマネギべと病の全身発病症状の再現と病斑形成の規則性 ○田代暢哉[1]・川上 顕[2,3]・高木里歩[4]・浦川綾子[1]・中山伸一[1]・宮﨑尚子[1]・園田亮一[2]・藤原和樹[2]・田中義樹[1]・宮坂　篤[2]・草場基章[4]（1佐賀上場営農セ・[2]農研機構九州沖縄農研・[3]現：農研機構西日本農研・[4]佐賀大農）
15:26	104 国内産タマネギべと病菌及びレタスべと病菌からのCesA3遺伝子の検出とシークエンス解析 ○石井英夫[1]・Stammler, G.[2]・田代暢哉[3]（[1]吉備国際大・[2]BASF・[3]佐賀上場営農セ）	204 MEK2[DD]によるHR様細胞死を抑制する青枯病菌エフェクターclone42の機能解析 ○小坂沙波[1]・佐藤幹也[1]・田口義人[1]・吉岡博文[2]・秋光和也[1]・市村和也[1]（[1]香大院農・[2]名大院農）	304 ネギべと病の感染および胞子形成に及ぼす湿潤時間と温度との関係 ○楠幹生[1]・米澤晃子[2]（[1]香川農試病害虫防除所・[2]小豆農改）
	座長　高野 義孝（京大院農） 105-108	**座長　木場 章範（高知大農） 205-208**	**座長　伊藤 陽子（西日本農研） 305-308**
15:38	105 全ゲノム比較手法に基づくTolnifanide耐性遺伝子の特定 ○重吉沙衣[1]・田中千尋[2]・宮川恒[2]・入江俊一[1]・鈴木一実[1]・泉津弘佑[1]（[1]滋賀県大院環・[2]京大院農）	205 植物ホルモン情報伝達経路を標的とする青枯病菌エフェクターの探索と機能解析 ○中野真人・向原隆文（岡山生物研）	305 トマト青枯病に対する糖含有珪藻土を用いた土壌還元消毒法と高接ぎ木法の併用による防除効果 ○村元靖典[1]・渡辺秀樹[1]・棚橋寿彦[1]・中保一浩[2]（[1]岐阜農技セ・[2]農研機構野菜花き研）
15:50	106 ヒストンメチル基転移酵素MoSET1が制御するいもち病菌リン酸化酵素の機能解析 ○濱根美穂子・池田健一・中屋敷均（神戸大院農）	206 スイカ果実汚斑細菌病菌推定エフェクターAave_4606は植物チオレドキシン依存的にGSH分解活性を獲得する ○藤原祥子・池尻篤生・田中直孝・田淵光昭（香川大農）	306 富山県における新規資材を用いた土壌還元消毒によるトマト青枯病・キュウリ根こぶ線虫病の防除 ○川部眞登[1]・井上康宏[2]・植原健人[2]・中保一浩[3]・守川俊幸[4]（[1]富山農総セ園研・[2]農研機構中央農研・[3]農研機構野菜花き・[4]富山農総セ企管）

16:02
107
いもち病菌のイネ根における宿主特異的寄生性評価

○岡田大樹・中屋敷均・池田健一（神大院農）

16:14
108
オオムギの各種いもち病菌群に対する抵抗性遺伝子座 *Rmo2*の1アリル候補配列の機能解析

○庭本大輔[1]・足助聡一郎[1]・Analiza Grubanzo Tagle[1]・久野裕[2]・佐藤和広[2]・土佐幸雄[1]（[1]神戸大院農・[2]岡山大植物研）

座長　須賀　晴久（岐大生命セ）　109-112

16:26
109
ラフレモンから単離した21 kDa proteinの機能解析

○島上卓也・浅井優希・五十嵐千佳・望月進・市村和也・五味剣二・秋光和也（香川大農）

16:38
110
*Alternaria alternata*タンゼリン病原型菌ゲノムに座乗するEpoxide hydrolaseをコードする遺伝子について

○津木悠吾[1]・田中佐和[1]・増中 章[1]・宮本蓉子[1]・大谷耕平[1]・柘植尚志[2]・山本幹博[3]・望月 進[1]・市村和也[1]・五味剣二[1]・秋光和也[1]（[1]香川大農・[2]中部大応生・[3]岡大院自然科学）

16:50
111
病原糸状菌を接種した植物表皮を用いたプロテオーム解析

玉置大介[1]・Yasir Sidiq[2]・髙原浩之[3]・池田大志[1]・唐原一郎[1]・八丈野孝[4]・○西内巧[2]（[1]富山大理工・[2]金沢大遺伝子・[3]石川県大・[4]愛媛大農）

17:02
112
植物病原菌*Fusarium oxysporum*由来のGH134ファミリーに属する糖質加水分解酵素の機能解析

○関谷千星[1]・新井春日[1]・志水元亨[2]・千葉壮太郎[1]・竹本大吾[1]・川北一人[1]・佐藤育男[1]（[1]名大院生農・[2]名城大農）

207
キウイフルーツかいよう病に耐性を持つキウイフルーツの野生種シマサルナシ*Actinidia rufa*における防御関連遺伝子の発現解析

○鎗内里奈[1]・柏原啓太[2]・宇治雄也[2]・田淵光昭[1]・杉田－小西左江子[1]・生咲巌[3]・大谷衛[3]・片岡郁雄[1]・望月進[1]・秋光和也[1,2]・五味剣二[1,2]（[1]香川大農・[2]愛媛連大農・[3]香川農試府中果樹研）

208
キウイフルーツかいよう病菌強病原性株biover 3における病原因子の解析

○齊藤美桜[1]・藤原祥子[1]・平田篤司[1]・佐々奈緒美[1]・生咲巌[2]・秋光和也1・五味剣二[1]・杉田(小西)左江子[1]・濱野康平[2]・田中直孝[1]・大谷衛[2]・片岡郁雄[1]・田淵光昭[1]（1香川大院農・[2]香川県府中果樹研）

座長　大崎 久美子（鳥取大農）　209-212

209
タバコ野火病菌のCDG1はアシルホモセリンラクトンの蓄積を正に制御する

○澤田春那・岡本卓巳・能年義輝・山本幹博・豊田和弘・松井英譲・一瀬勇規（岡大院環生）

210
非病原性*Rhizobium vitis* VAR03-1株によるブドウ根頭がんしゅ病の病原性関連遺伝子の発現抑制機構の解析

○石井智也[1]・渡邉恵[1]・齊藤晶[1]・松井英譲[1]・山本幹博[1]・一瀬勇規[1]・豊田和弘[1]・川口章[2]・能年義輝[1]（[1]岡山大院環境生命・[2]農研機構西日本農研）

211
非病原性Rhizobium vitis ARK-1株によるブドウ根頭がんしゅ病菌のvir領域の発現抑制（第2報）

○川口　章[1]・石井　智也[2]・渡邉　恵[2]・能年　義輝[2]（[1]農研機構西日本農研・[2]岡山大院環境命）

212
イネにおける新規揮発性テルペン合成酵素OsTPS21の解析

○木山榛菜・吉富佳代・桐生昌樹・望月進・秋光和也・五味剣二（香川大農）

307
ショウガ青枯病菌に対する低濃度エタノールおよび糖蜜飼料を用いた土壌還元消毒の効果

◯矢野和孝[1]・沖　友香[1]・森田泰彰[1]・堀田光生[2]（[1]高知農技セ・[2]農研機構農環研）

308
島根微生物ライブラリーを用いたキュウリ炭疽病菌の抑制に関する研究

○Ganphung Rattrikorn[1,2]・木原淳一[1,2]・上野誠[1,2]（[1]鳥取連大・[2]島大生資）

座長 渡辺 秀樹（岐阜農技セ）　309-312

309
島根微生物ライブラリーを利用したイネいもち病の抑制について（2）

○横山祐一郎・木原淳一・上野　誠（島大生資）

310
イネいもち病菌の感染促進因子2'-deoxyuridineを分解する微生物の探索と機能解析

○前嶌浩香・千葉壮太郎・竹本大吾・川北一人・佐藤育男（名大院生農）

311
養液栽培における微生物殺虫剤のトマト青枯病に対する発病抑制効果

○川上拓[1]・中嶋香織[1]・黒田克利[1]・礒﨑真英[1]・飯田祐一郎[2]（[1]三重農研・[2]農研機構野花研）

312
昆虫病原性糸状菌製剤によるイチゴうどんこ病およびイチゴ萎黄病の防除効果

○芳田侃大[1]・浅野峻介[1]・藤永真史[2]・山岸菜穂[2]・野口忠久[2]・飯田佑一郎[3]（[1]奈良農研セ・[2]長野野花試・[3]農研機構野花研）

	座長　竹本 大吾（名大院生農）　113-116
17:14	113 Antagonism between SA- and JA- signaling conditioned by saccharin renders resistance to a specific pathogen in *Arabidopsis thaliana* ○Phuong L.T.[1,3], Aprilia N.F.[1], Luan M.T.[1,3], Matsui H.[1], Noutoshi Y.[1], Yamamoto M.[1], Ichinose Y.[1], Shiraishi T.[2] and Toyoda K.[1] ([1]Okayama Univ., [2]RIBS Okayama, [3]Hong Duc Univ., Vietnam)
17:26	114 不適応型炭疽病菌の接種によりシロイヌナズナnsl1変異体において誘導される細胞死に関与する遺伝子の探索 ○坂井遼太[1]・畑　政輝[1]・海道真典[1]・三瀬和之[1]・阿部　陽[2]・寺内良平[1,2]・高野義孝[1]（[1]京大院農・[2]岩手生工研）
17:38	115 *TFV1* encoding a fungal Zn(II)2-Cys6 transcriptional factor is preferentially expressed in plant infection phase and is required for full virulence of *Colletotrichum orbiculare* on cucurbit plants ○ Zhang, R., Inoue, Y., Kaido, M., Mise, K. and Takano, Y. (Grad. Sch. Agric., Kyoto Univ.)
17:50	116 アブラナ科炭疽病菌の細胞死誘導型エフェクターの解析 ○髙原浩之[1,2]・中島昌太[1]・夏目英哉[1]・林蒼唯[2]・小椋賢治[1,2]（[1]石川県大・[2]石川県大院）

座長　上野 誠（島根大生資）213-216	座長　望月 知史（大阪府大）　313-316
213 SA応答性免疫機構を制御するphyB依存的なキナーゼの解析 ○堀尾宗正[1]・東井周[1]・野元美佳[2]・板谷知健[2]・松下智直[3,4]・多田安臣[1,2]（[1]名大院理・[2]名大遺伝子・[3]JST さきがけ・[4]九大院農）	313 紫外光（UV-B）と反射資材の組み合わせは果実のイチゴうどんこ病防除効果を強化する ○内橋嘉一[1]・田中雅也[1]・三浦宏晴[1]・神頭武嗣[1]・佐藤衛[2]（[1]兵庫農技総セ・[2]農研機構野菜花き）
214 希少糖の植物への作用 (51)：シロイヌナズナにおけるD-allose誘導性遺伝子の挙動解析 ○森口晃希[1]・松平一志[1]・大谷夏生[1]・江島早紀[1]・加野彰人[1]・福元健志[1]・何森健[1]・小原敏明2・石田豊[3]・大谷耕平[4]・望月進[1]・市村和也1・五味剣二[1]・秋光和也[1]（[1]香川大農・[2]三井化学アグロ・[3]四国総合研・[4]松谷化学工業）	314 pH降下型肥料の施用方法の違いがレタスビッグベイン病低減効果におよぼす影響 ○松浦克成[1]・西口真嗣[1]・岩本　豊[1]・中野伸一[2]（[1]兵庫農技総セ・[2]兵庫淡路農技セ）
215 MAMP応答性リン酸化タンパク質MARK2の病原菌感染時の機能解析 ○澁谷日奈[1]・前田和輝[2]・四井いずみ[3,4]・玄康洙[3]・野村有子[3]・一瀬勇規[1,2], 松井英譲[1,2,3]・中神弘史[3,5]（[1]岡山大院環生・[2]岡山大農・[3]理研CSRS・[4]東京農大生命科・[5]MPIPZ）	315 愛知県におけるシソモザイク病防除対策の構築 ○恒川健太[1]・堀川英則[1]・伊藤涼太郎[2]・大橋博子[1]・武山桂子[1]・鈴木良地[1]・市川耕治[1]・坂紀邦[1]（[1]愛知県農業総合試験場・[2]ウォーターセル株式会社）
216 エンドウの細胞壁タンパク質に検出されるキトサン結合タンパク質 ○松尾実佳[1]・川端真矢[1]・三木紅葉[1]・松井英譲[1]・能年義輝[1]・山本幹博[1]・一瀬勇規[1]・白石友紀[2]・豊田和弘1（[1]岡大院環生・[2]岡山生物研）	316 アセチル化グリセリド（ベミデタッチ乳剤®）の散布による半促成トマト栽培でのタバココナジラミとトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）発生抑制の現地実証 ○松浦昌平・星野　滋・亀井幹夫・加嶋崇之　（広島総研農技セ・石原産業）

2日目

2日目 9月28日(金)	第1会場
	座長　高原 浩之(石川県大)117-121
9:00	117 ウリ類炭疽病菌の強病原性株および中程度病原性株のスイカ品種への感染性の調査 ○辻田理紗・井上喜博・海道真典・三瀬和之・高野義孝(京大院農)
9:12	118 シロイヌナズナのリン枯渇適応反応を制御する転写因子PHR1による共生糸状菌制御機構 ○畫間敬[1,2]・西條雄介[1](1奈良先端大・2JSTさきがけ)
9:24	119 灰色かび病菌*Botrytis cinerea*がファイトアレキシンの解毒時に発現変動する遺伝子群のRNAseq解析 ○黒柳輝彦[1]・小鹿　一[1]・鈴木孝征[2]・佐藤育男[1]・千葉壮太郎[1]・川北一人[1]・竹本大吾[1](1名大院生農・2中部大応生)
10:36	120 イネ科植物に感染する*Epichloë*属菌の異種間での細胞融合の観察およびHybrid菌株の作出 ○三浦里佳・磯部仁美・佐藤育男・千葉壮太郎・川北一人・田中愛子・竹本大吾(名大院生農)
10:48	121 鳥取県内のカモジグサ類(*Elymus*)と共生する*Epichloë*属エンドファイトの遺伝的多様性解析 ○伊津奈織[1]・辻本　壽[2]・Wayne R. Simpson [3]・Richard D. Johnson [3]・赤木靖典[4]・児玉基一朗[4](1鳥取大院・2鳥取大乾地研・3AgResearch, N. Z.・4鳥取連大)
	座長　望月 進(香川大農)　122-126
10:00	122 微生物分子パターンに対するミナトカモジグサの活性酸素種生成特性の解析 ○小笠原翼[1]・松井英譲[1]・山本幹博[1]・一瀬勇規[1]・豊田和弘[1]・香西雄介[2]・能年義輝[1](1岡山大院環境生命・2理研CSRS)

第2会場	第3会場
座長　松井 英譲(岡山大院環生)217-221	**座長　野見山 孝司(野菜花き研)　317-320**
217 ジャスモン酸誘導性転写因子OsbHLH034はイネジャスモン酸シグナルを正に制御する ○尾野畑智則・岡本祐季・望月進・秋光和也・五味剣二(香川大農)	317 野生きのこからの分離菌を用いたイネいもち病の抑制について ○森口慶哉[1]・横山祐一郎[2]・木原淳一[1,2]・上野誠[1,2](1島大自然・2島大生資)
218 OsNINJA1結合タンパク質OsFHA1のイネジャスモン酸シグナル伝達機構における役割 ○岡本祐季[1]・柏原啓太[2]・宇治雄也[2]・田中涼[1]・濵中美帆[1]・望月進[1,2]・秋光和也[1,2]・五味剣二[1,2](1香川大農・2愛媛連大農)	318 島根県で採取したきのこ分離菌を用いたイネいもち病の防除 ○福間康人[1]・藤江純矢[2]・横山祐一郎[1]・木原淳一[1]・上野誠[1](1島大生資・2現島根農技セ)
219 ジャスモン酸誘導性イネ白葉枯病抵抗性機構におけるOsSRO1aの役割 ○柏原啓太[1]・岡本祐季[2]・尾野畑智則[2]・宇治雄也[1]・田中涼[2]・濵中美帆[2]・望月進[1,2]・秋光和也[1,2]・五味剣二[1,2](1愛媛連大農・2香川大農)	319 Inhibitory activity of *Paenibacillus* sp. isolated from soil in Gotsu city, Shimane Prefecture, against *Xanthomonas oryzae* pv. *oryzae*, the causal agent of Rice Bacterial Leaf Blight. ○Haidary, M.N., Tamura, T., Kihara, J., and Ueno, M. (Grad, Sch. Environ. Life Sci., Shimane Univ.)
220 ジャスモン酸誘導性のVQモチーフタンパク質OsVQ13はイネ白葉枯病抵抗機構に寄与する ○宇治雄也[1]・望月進[1,2]・秋光和也[1,2]・五味剣二[1,2](1愛媛連大農・2香川大農)	320 市販水稲育苗培土の苗腐敗症抑止性におけるBacillus属細菌の重要性 ○野畑幹也[1]・佐伯裕作[2]・須賀晴久[3]・景山幸二[4]・清水将文[1](1岐大院自然科学・2揖斐川工業・3岐大科基セ・4岐大流域研セ)
	座長　川上 顕(西日本農研) 321-324
221 ジャスモン酸によって誘導されるサリチル酸メチルのイネ白葉枯病抵抗性における役割 ○濵中美帆[1]・鈴木豪[1]・田中啓一朗[1]・谷口しづく[2]・望月進[1,2]・秋光和也[1,2]・五味剣二[1,2](1香川大農・2愛媛連大農)	321 カニ殻由来キチンナノファイバー/タンパク質/炭酸カルシウム複合体のトマト萎凋病に対する防除効果 江草真由美[1]・Roxana Y. Parada[1]・三浦千裕[1]・Yihun F. Aklog[2]・伊福伸介[2]・○上中弘典[1](1鳥取大農・2鳥取大院工)
座長　松浦　昌平 (広島総研農技セ)　222-225	
222 高知県のシシトウガラシから検出されたファイトプラズマ ○下元祥史・森田泰彰・竹内繁治(高知農技セ)	322 フザリン酸を分解する微生物によるトマト萎凋病発病抑制とその分解特性 ○田川克滉・澤田祐次・鈴木萌・千葉壮太郎・竹本大吾・川北一人・佐藤育男(名大院生農)

10:12

123
A CEP peptide acts as an endogenous suppressor in Arabidopsis

○Aprilia, N.F.[1], Mai, T.L.[1], Phuong, L.T.[1], Zhao, L.[1], Shiokawa, T.[2], Tada, H.[2], Matsui, H.[1], Noutoshi, Y.[1], Yamamoto, M.[1], Ichinose, Y.[1], Shiraishi, T.[3] and Toyoda K.[1] ([1]Okayama Univ., [2]Adv. Sci. Research Center, Okayama Univ., [3]RIBS Okayama)

10:24

124
細胞外オキシダティブバースト反応の分子機構：ペルオキシダーゼのスルフェン酸化とその役割

○高須瑞穂[1]・吉岡美樹[2]・吉岡博文[2]・松井英譲[1]・能年義輝[1]・山本幹博[1]・一瀬勇規[1]・白石友紀[3]・豊田和弘[1]（[1]岡大院環生・[2]名大院生農・[3]岡山生物研）

10:36

125
ジャガイモ疫病菌由来のセラミド化合物群は植物病原性卵菌に共通するPAMPsである

○辰巳絢音[1]・小鹿一[1]・Maurizio Camagna[1]・Mohammad Shahjahan Monjil[1]・松田健太郎[1]・加藤大明[2,3]・寺内良平[2,3]・佐藤育男[1]・千葉壮太郎[1]・川北一人[1]・竹本大吾[1]（[1]名大院生農・[2]京大院農・[3]岩手生工研）

10:48

126
Lumi-Map法を用いたシロイヌナズナβ-1,3-glucan情報伝達因子の単離

○加藤大明[1,2]・清水元樹[2]・阿部陽[2]・小内清[1]・石浦正寛[3]・高野義孝[1]・寺内良平[1,2]（[1]京大院農・[2]岩手生工研・[3]名大遺伝子）

座長　五味 剣二（香川大農）　127-130

11:00

127
ベンサミアナのファイトアレキシン前駆体の合成に関与するメバロン酸経路酵素遺伝子群の網羅的発現解析

○Soriya Rin・Maurizio Camagna・佐藤育男・千葉壮太郎・川北一人・竹本大吾（名大院生農）

11:12

128
ベンサミアナの分泌ペプチド*SAR8.2*は遠縁な種々の*Phytophthora*属菌に対する非宿主抵抗性に関与する

○今野沙弥香[1]・近藤洋平[1]・柴田裕介[1]・近藤竜彦[1]・佐藤育男[1]・千葉壮太郎[1]・景山幸二[2]・川北一人[1]・竹本大吾1（[1]名大院生農・[2]岐大流域研セ）

223
山口県のナシ栽培園で発生した果実腐敗症と病原細菌の同定

○唐津達彦[1]・殿河内寿子[2]・岡崎仁[1]・堀田光生[3]（[1]山口農林総技セ・[2]美祢農林水・[3]農研機構農環研）

224
高知県におけるカンキツかいよう病菌の細菌学的特徴

○冨村健太[1]・中平智章[2]（[1]農研機構果樹茶部門・[2]高知農技セ果樹試）

225
Pythium ultimum Trow var. *ultimum*によるエゴマ苗立枯病（新称）

○福間貴寿（島根農技セ）

座長　下元 祥史（高知農技セ）　226-230

226
養液栽培で発生したにホウレンソウ*Olpidium*根腐病（新称）

○西村幸芳[1]・草刈眞一[2]・村井和夫[3]・野見山孝司[4]・東條元昭[5]（[1]大阪府環農水研・[2]大阪植防・[3]クボタサンベジファーム㈱・[4]野菜花き研・[5]大阪府大院生環）

227
タイ国のマンゴー、トウガラシ炭疽病菌におけるQoI剤耐性菌の検出

Pornprapa Kongtragoul[1]・○今元一海[2]・石井英夫[2]（[1]タイ国 King Mongkut's Inst. Technol.・[2]吉備国際大）

228
トマトかいよう病土壌消毒実験の接種源としての感染植物体の保存方法の検討

○清水佐知子[1]・梶原真二[1]・東條元昭[2]（[1]広島総研農技セ・[2]大阪府大院生環）

323
イネ科植物根圏土壌からの新規デオキシニバレノール分解細菌の分離と機能解析

○森村洋行・千葉壮太郎・竹本大吾・川北一人・佐藤育男（名大院生農）

324
*Pythium oligandrum*のダイズ苗立枯病に対する抑制効果

尤 暁東[1]・Joffroy Barraud [1,2]・○東條元昭[1]（[1]大阪府大院生環・[2] IUT de La Rochelle）

座長　川口 章(西日本農研)　325-329

325
キュウリ褐斑病防除におけるマンゼブ水和剤への展着剤加用によるキュウリ果実汚れ軽減効果と防除効果への影響

○矢尾幸世[1]・桐野菜美子[1]・苧坂大樹[1]・畔柳泰典[2]（[1]岡山農研・[2]岡山県農産課）

326
イチゴ黒腐病に対する各種殺菌剤の防除効果

○渡辺秀樹・村元靖典（岐阜農技セ）

327
ウンシュウミカン輸出後の貯蔵病害に対する収穫前の薬剤処理と収穫後の被膜剤処理の効果

○武田知明[1]・衛藤夏葉[1]・井沼崇[1]・西銘玲子[2]・Jau Chia Ya[2]・有松仁美[3]・中野龍平[3]（[1]和歌山果試・[2]三井化学シンガポールR&Dセ・[3]岡大環生科）

328
カンキツかいよう病に対するアシベンゾラルSメチル抵抗性誘導剤とチアメトキサム剤の併用効果

○今井健司（徳島農総技支セ）

11:24	129 抵抗性誘導剤のシーズとして単離したサリチル酸配糖化酵素阻害剤の反応速度論解析 ○篠原優佳[1]・渡邉恵[1]・楠和輝[1]・谷川友里佳[1]・松井英譲[1]・山本幹博[1]・一瀬勇規[1]・豊田和弘[1]・熊谷和夫[2]・米須清明3・能年義輝[1]（[1]岡山大院環境生命・[2]神戸大院工・[3]東京大DDI）
11:36	130 宿主足場タンパク質RACK1のハイジャックによる植物ウイルス増殖機構 ○兵頭究[1]・鈴木信弘[1]・奥野哲郎[2]（[1]岡大植物研・[2]龍谷大農）

229 新規プライマーセットを用いたリアルタイムPCR法によるアブラナ科野菜類根こぶ病菌の土壌菌密度測定 竹岡柚美[1]・小野 愛[2]・木村重光[3]・久保中央[1,3]・○辻 元人[1]（[1]京府大院生環・[2]京都府京都乙訓農改普セ・[3]京都府農技セ生資セ）	329 メトミノストロビンの作用機構に関する研究 ○佐藤穂高[1]・市成光広[2]・櫻本和生[2]・山田　晶[2]・松井英譲[1]・能年義輝[1]・山本幹博[1]・一瀬勇規[1]・白石友紀[3]・豊田和弘[1]（[1]岡大院環生・[2]住商アグロ・[3]岡山生物研）
230 次世代シーケンサーによる土壌細菌相解析のための試料調製方法の評価 ○西村文宏[1]・藤澤遥[1]・関口博之[2]・中西充[1]・森充隆[1]（[1]香川農試・[2]西日本農研）	